

由利本荘市農業委員会だより

あなたと農地。

2023(令和5)年
1月発行

第33号

あけまして
おめでとう
ございます



農地を守り

五穀豊穰へ

新年のごあいさつ



由利本荘市農業委員会
会長 佐藤 系悦

謹んで新春のお喜びを申し上げます。
日頃より本市農業委員会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
昨年は、作況指数95の「やや不良」となり、5年ぶりの収量低下となりました。自然環境とはいえ大きく天候に左右された年でした。

また、待望の新品种「サキホコレ」が市場デビューとなるなど喜ばしい話題があった一方で、農業を取り巻く情勢は、農業者の高齢化や担い手不足、遊休農地の増加、さらには、コロナ禍による消費減少や、ロシアによるウクライナ侵攻、また円安の影響による肥料・飼料、燃料費等の高騰が規模の大小を問わず農業経営に大きな打撃を与えています。

このような状況を踏まえ、農業委員会では、農業経営継続のための対策として、情勢に応じた柔軟な支援策や生産資材高騰に対して価格転嫁出来る政策を国・県に働きかけること、また、「担い手への農地集積、集約化の推進」「新たな担い手の確保育成のための施策」「遊休農地を防ぐための中小規模農家への支援」など、農業全般に対する政策支援提案を市や市議会に対して行っているところです。

私たち農業委員、農地利用最適化推進委員は、農地法に基づく許認可や遊休農地対策とともに「今使われている農地を使えるうちに使える人に引き継いでいく」ための活動を引き続き進めて参りますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、本年は災害もない良い年であってほしいものです。皆様のご多幸を祈念し、新年のあいさつといたします。

本年もどうぞよろしく申し上げます

農業委員・農地利用最適化推進委員一同

- | | | | | |
|-------------------------|------------------------|---|-----------|------|
| 村三赤三齋古遠三島成佐庄五高佐豊佐本大金伊板 | 吉伊庄佐佐菅伊加佐佐佐佐小小大小佐岡佐畑齋 | 富 | 【会長職務代理者】 | 【会長】 |
| 上船川浦藤関藤浦山田木司藤嵐橋木島藤間門藤垣 | 尾藤司藤藤原藤藤木木藤藤松松瀧野木部藤山藤 | 樫 | 公 | 佐藤 |
| 勘善幸良幸敬高昭和幸福一彦司美巳喜一初護二正明 | 麻和源秀文直三知純幸浪晃五喜留美誠 | 一 | 一 | 系悦 |
| 保一隆信衛子夫夫実一志一彦司美巳喜一初護二正明 | 美剛夫樹孝克子敏榮一崇順夫健雄一享郎勝子誠 | ※ | ※ | 【本島】 |
| （鳥鳥鳥（西東東大大由由由岩岩矢矢本本本本本 | （岩由由鳥鳥本大大矢本鳥由大東本東大本岩矢西 | ※ | ※ | （本島） |
| 海海海目目利利内内内内利利利城城島島荘荘荘荘 | 城利利海海荘内内島荘海利内利荘利内荘城島目 | 順 | 順 | |

農業委員会の活動日記から

農業委員、農地利用最適化推進委員の主な活動から紹介します。



▲湊市長へ意見提案書を提出した

農地等利用最適化推進施策に関する意見提案書提出（市長及び議長）10/24

農業委員会の喫緊課題「農地集積・集約化」、「担い手の確保育成・経営対策」などを盛り込み、農業委員会全員協議会において決議した意見提案書を、会長と各委員会の委員長が代表し湊市長及び伊藤市議会議長へ提出いたしました。



▲平沢ファームでの現場研修から

農業委員会現場研修会（秋田市）8/9

農業委員会現場研修として、雄和の農事組合法人平沢ファームにて、集出荷施設現場視察が行われました。農業を取り巻く様々な課題から農業委員会、農業委員としてできることは何か…、各委員は代表者の説明を真剣に聞き入っていました。



▲料理実習に取り組んだ委員

秋田県農業委員会女性協議会地区研修会・意見交換会（秋田市・遊学舎）11/7

農業委員への女性登用促進に関する意見交換会が実施され、女性委員3人が参加、令和5年の委員改選における女性登用の課題と現状について話し合いました。また、地産地消に向けた取り組みとして「どぶろくじゅんさい鍋」の料理実習が行われました。



▲がんばろう三唱の声が会場に響き渡った

秋田県農業委員会大会（大仙市）11/1

第145回秋田県種苗交換会の開催と同時に、大曲市民会館大ホールにて秋田県農業委員会大会が行われました。当日は農業委員、推進委員24人が出席し、大会宣言後、会場の関係者一同で「がんばろう」三唱。組織が果たすべき使命と役割を再確認しました。



野内守情報局

農業者年金に加入しませんか？

- ◇ 農業者年金は農業者の方が加入できる「終身年金」です。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金があります。

年間60日以上農業に従事している、国民年金の第1号被保険者（保険料免除者を除く。）で20歳以上60歳未満の方、または60歳以上65歳未満の国民年金任意加入者が加入できます。

- ◇ 一定の要件を満たす方には、月額最大1万円の保険料の国庫補助があります。
- ◇ 保険料は全額社会保険料控除の対象となります。

農業者年金についてのご相談はお近くのJAまたは農業委員会にお問い合わせください。

農業者年金ホームページの「年金シミュレーター」は簡単な入力でご自分の年金額が試算できます。 <https://www.nounen.go.jp>

農業委員会組織が発行する農業に関する総合専門誌です





全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS


<https://www.nca.or.jp/shinbun/>


- ◆ 発行所／全国農業会議所
- ◆ 発行／月4回金曜日発行
- ◆ 購読料／月700円 年8,400円（税込）
購読申込みは農業委員会事務局まで


 **吉尾** 女性だからということではないのですが、周りの委員さんが優しくいろいろ話しかけてくれたり、教えてくれたりしてもらえたのが心強かったです。


 **古関** そういえば、疑問があって先輩委員たちに質問すると、男性だから、女性だからという隔たりもなく、わかりやすく教えて頂けてありがたかったです。委員は農業のプロだな、と感じました。


若者が農業に関心を持てる活動ができれば

 **事務局** これからの委員のあるべき姿をどう思いますか。


 **畑山** 委員は、やはり地元の農業者、営農状況などを知っていないと難しい仕事だと思いますね。一回、二回話ただけで仲良くなるのはなかなか難しいと思いますので、それが課題かと…。


 **古関** そうですね。あと周りの人たちが委員の事をあまり知らない事も思いの外多いです。堅苦しい印象が強いのかな…。もっと分かりやすく、親しみやすい感じで活動していけたらと思います。


 **伊藤** 確かにもっと委員の活動、農業の現状を非農家の方に知ってただけだったらいいですね。


 **吉尾** あとは…、若い人が全然いないのもっと若い人たちに農業はこんなに楽しいと思ってもらえるようなアピール、農業をやりたい人へのいろいろな補助制度などをしつ

かり伝えたいですね。


 **伊藤** 同感です。若い人、特に子どもたちが農業に関心を持ってもらえるアピールをしていきたいです。

 **事務局** 令和5年の農業委員会改選に伴い、委員をやりたい方へ先輩としてメッセージを。


 **吉尾** 今回、初めての委員活動で不安だらけでしたが、先輩委員、事務局の人たちが優しく丁寧に教えてくれて、無事に仕事ことができました。やってみたい方は安心してチャレンジしてみてください！

 **古関** 私も同じです。最初は分からない事だらけでしたが、知識は委員さんや事務局から聞いたり、農家の話に耳をかたむけて、少しずつ理解していければ良いと思います。

可能性追求のため、農家の皆さんも委員に挑戦を！

 **畑山** 特に、農家の皆様は、自分たちの可能性を追求するために、また、よりよい農業を実現するために、ぜひ委員に挑戦してほしいです。他の地区の農業者と情報交換したり、交流したりする機会もあるし、最新の情報を知ることなどで得られることはたくさんあると思います。非農業者としても、由利本荘市の農産物についてよく理解できるし、農作物を見る目が違ってくるような気がします。

女性ならではの目線による取り組みに期待したい

 **伊藤** 委員は男性のイメージが強く、女性にはハードルが高いように思えますが、私のような中立委員で農業に携わってなくてもどうにか務まっています。ましてや農業者は現場が分かっているだけに多角的にいろいろな提言ができるのではないのでしょうか。地域で奮闘している女性農業者、農業関連分野で活躍している女性の方は大勢いらっしゃいます。その方々に臆せず委員になっていただきたい




よしおまみ
吉尾麻美委員（岩城）



こせきゆきこ
古関幸子推進委員（東由利）

いです。ぜひとも女性ならではの目線で農業委員会の活動を地域の女性農業者に周知する取り組みをしていただきたいです。

 **事務局** 本日はありがとうございました。任期はあと半年ほどですが、3年間に及ぶ活動の集大成に期待します。



任期満了による令和5年農業委員・推進委員改選スケジュールについては、ホームページ、広報ゆりほんじょうなどでお知らせいたします。「委員として活動したい」「農地を次世代につなげるために頑張りたい」など、農地利用に前向きな姿勢をお持ちの方は、ぜひとも挑戦してみませんか。





座談会

「農業委員×女性→未来 ～女性農業委員の役割は」



本年8月、農業委員会委員改選が3年ぶりに行われます。現在、農業委員会での農業委員、農地利用最適化推進委員（以下委員）の女性数は4人という現状です。このたび、改選を目前に、女性委員の皆さんから日頃感じている率直な意見をいただきました。意見を再構成し、その一部をご紹介します。

事務局 本日はお集まりいただきありがとうございます。まずは委員としてどんな活動をしているのか、お話しください。

吉尾 自宅で農業をしながら、周りの圃場の様子をみたり、あとはいろいろな人の話を聞いたりしています。

古関 農地の事で、ちょっとした話から情報収集したり、不明な点は事務局に相談したりして、なるべく解決できる様な活動をしています。

伊藤 私は皆さんと違い、非農家の中立委員なので、活動の中でいろいろ学びながら委員の活動、農業

の現状などを周りの方に理解していただけよう努めています。地域の農産物の積極的な選択など、食育、地産地消など具体的な行動の推進のため、他の会議などで機会があるごとに話すように心がけています。

畑山 私も私生活では全く農業とは関わりがありません。工作上、農地の移動や、日本型直接支払事業の作業日報を目にするので、農家の方々の仕事の困り事や、世間話のような会話を聞くことがあります。他の委員への情報提供や事務局との仲介役には慣れているのかな、と思うことはあります。他は、毎年農地パトロール、農業者年金加入促進活動などです。

事務局 委員になって印象深い事は何でしたか。例えばうれしかった事、つらかった事など。

伊藤 農地パトロールなどで圃場を巡回し、担い手がおらず荒廃していく圃場が思っていた以上に多いことに衝撃を受けています。あとは経験不足の委員ですが、農地転用、水害被害の圃場の助成金の相談などを受けることがあり、それを行政機関につなげる橋渡しができました。

日々の活動が勉強であり、喜びの元に

古関 他地区の委員の方からい

ろいろな事を教えて頂いたり、現地作況調査は、農家の方たちの日々の頑張りを見学させてもらい、とても勉強になりましたね。

吉尾 委員のみなさんと視察に行ったりしていろいろな勉強をすることができました。それから農業委員会だよりをみて、面白かったと言ってもらえた時はとてもうれしかったです。

畑山 農業委員会の取り組みで、農業者へのアンケート配布と回収がありました。冬季の活動だったため、住所を見て家の確認、配布の時も吹雪だったり、つらい思い出です。あとは吉尾さんと同じく広報委員会の活動で、掲載記事について感謝されたことです。

（注・畑山委員、伊藤委員、吉尾委員は広報委員としても活動。）

事務局 女性委員として活動する上で、思う事はありましたか。

伊藤 行政機関に直接相談に出向くより、相談者の垣根が低いように思います。地目変更のお願いなどの時、ソフトに対応できるのではないのでしょうか。



はたやま りみこ
畑山留美子委員（矢島）



いとう なおこ
伊藤直子委員（大内）

農業にチャレンジ!



さいとう のりやす
齋藤 礼靖 さん
本荘地域 薬師堂 (36歳)

わが家は代々、農業と神主を
生業としています。子供の頃は
漠然と家を継ぐのかなと考えて
いましたが、大学を卒業して
から、農繁期は田んぼに赴き土
と遊び、農閑期は神主として「二
足のわらじ」を履いています。
農業に関しては手伝い程度し
か経験がなく素人同然でした。
分からないことだらけで四苦
八苦しながらも、父や近所の諸
先輩方と、とりとめのない話や、
農業の未来について語り合いな
がら日々いそいそと進んでまいりました。

「農業は毎年一年生」と言わ
れるように、その年の天候に
よって様々な顔を見せてくれ
ます。酷暑になれば、見たこ
ともない雑草が生えてきたり、
気温が上がらなければ稲の生
育が遅くなったりなど、その
たびに地域の農家さんやJA
職員の方々と情報を交換し、
対策を講じるのですが、うま
くいくことだけでなく、失敗
することもあります。作物を
出荷し、「今年もおいしくいた

だきました」と言われると一
年の苦労全てが報われた様に
感じ、来年はもっと良い物を、
と新たな気持ちになります。
神社神道においては、「齋庭
稲穂の神勅いなほ しんちやく」という言葉があ
り、古来より日本人と稲作は
切っても切れない関係にありま
した。先祖代々受け継がれてき
た美しい田園風景を後世に残す
ため、日々精進していきたいと
思います。
(文 齋藤礼靖さん 担当 佐々木純二)



美しい田園風景を 後世に



野内守情報局

農地の貸し借りの前に ちよつと一考を

例えば、こんな農地はありませんか。

- ・昔から口約束で知人などに貸して(借りて)いる。
- ・手続きが面倒くさいから、ヤミで貸して(借りて)いる。

放置するとトラブルの発生原因に繋がる可能性があります。

例えば:

- ・農地を返して欲しいのに返してくれない。
- ・離作料を請求される。
- ・長年耕作している農地を、急に返すように言われた。



POINT
トラブルを発生させないために、農地の貸し借りを開始する際には、農地中間管理事業の手續きの相談(利用権設定)を農業委員会、各総合支所産業建設課庶務班でお願いします。(電話番号等は最終ページ)

なお契約期間が終了すれば、出し手農家へ確実に農地が返還されます。
まずは相談から始めませんか。

表紙のひとこま



農政転換への挑戦



あいづ いさお
会津 勲 さん
西目地域 中沢 (55歳)

農家の後継ぎとして西目で生まれ、農業を始めてからずいぶん経ちました。

水稲2ヘクタールから始め、減反政策が開始となったため、水田以外での挑戦として、りんごの栽培を始めました。また、時代の流れで離農した農家さんから農地を引き受け、現在では、水稲、キャベツ、大豆、蕎麦の作付面積が40ヘクタールと拡大し、法人格を持たない個人農家

としてはそこそこ大きくなったなあと思つていますが、ここで立ち止まらず、更なる大規模化に向けて頑張つていきたいと思つています。

私は、大規模化⇨生産性の向上と信じ、大型機械の導入、自動運転トラクター、ドローンによる省力化、レーザーレベラーでの大面積の均平作業などいろいろ頑張つてきましたが、ここ

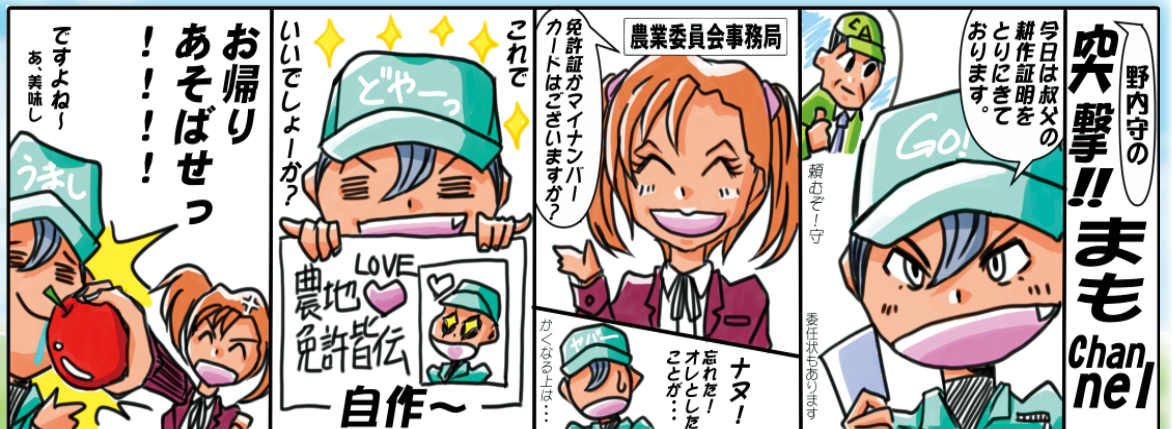
す。離農される農家さんから受け継いだ農地の点在化・モザイク化が進んでいるため、作業効率の面で大きなネックになっていきます。これは大規模農業農家共通の課題です。土地の集約化があつて、初めて持続可能な魅力ある農業ができると思つて

います。今後は、行政、農協、やる気のある農家を巻き込み、「農業をやつてみたいな」と思える環境を残していきたいと思つていま

(文 会津勲さん 担当 齋藤 衛)



持続可能な農業 目指して



「耕作証明書」の発行申請は、本人確認できるもの(運転免許証、マイナンバーカード、健康保険証など)をお持ちください。(同居家族以外の代理申請、また法人の申請については委任状が必要です。)

地域のスマイル

むらかみ ふみや
村上 郁弥 さん (37歳)

本荘地域 石脇

耕作放棄地となった実家(矢島)の水田を畑地としさつまいもを栽培している村上さんから話を伺いました。



▲さつまいも栽培のほか芋ほり体験受け入れも

◇農業をはじめたきっかけは
全国的にさつまいもの需要が高まることを知り、試験的に栽培。産地と比べて遜色ない食味だと感じ、本格的に栽培を始めました。現在は70坪の面積で「べにはるか」「シルクスweet」を栽培しています。

◇苦労している点や工夫している点は

水田を活用しているため排水性が悪く、長雨が続きと病気の発生につながりやすい。微生物資材による土壌改良のほか、ビール酵母細胞壁や二価鉄を葉面に散布。病気への抵抗性を上げ、相乗効果として農薬や肥料の使用削減にもつなげ、栽培環境の最適化に注力しています。



◇励みになったことは

お客様から『一度食べたなら他のさつまいもは食べられない』『今まで食べたさつまいもの中で一番おいしい』と言われたこと。

2022年度の野菜ソムリエサミットで「シルクスweet」が金賞を受賞し、プロの方に評価していただけたこと。

◇これからの目標は

中山間地における農業のあり方を考えつつ、魅力ある農業を展開していきたい。海外輸出を視野に入れ、県内での生産体制の構築に取り組み、10年以内にさつまいも取扱量400トを目指したい。

(文 村上郁弥さん 担当 畑山留美子)



▲アキタサゴローファームとして出荷

今年の干支

よい年に
なります
ように

キューピーちゃん(女の子)

まさかかずと
真坂和都さん(鳥海地域 猿倉)のうさぎ

編集後記

近年、農業者の減少・高齢化の進行に伴い、農業現場にかつてない不安が広がっています。特に担い手の減少、耕作放棄地の増加、生産基盤の弱体化、また、春先以来の生産資材の価格高騰などによる課題が山積しています。

これらの課題を克服するために、私たち農業委員・農地利用最適化推進委員は、関係機関・団体と協力し、経営基盤の強化と持続可能な地域農業を構築していくため活動して参ります。

最後に、農業委員会だより新年号(第33号)の発行にあたり、ご多忙の中、ご寄稿下さいました皆様に衷心より御礼と感謝申し上げます。

(委員 小松 健)

◆広報委員

佐藤 崇・畑山留美子
小松 健・佐藤 順
佐々木 純一・伊藤 直子
吉尾 麻美・齋藤 衛



農業委員会事務局

市外局番(0184)

◆本庁 TEL 24-6258
農政班 TEL 24-6259
農地班 TEL 24-6260
FAX 24-6396

◆各総合支所 庶務班 (産業建設課内)

矢島 TEL 55-4957
岩城 TEL 73-2014
由利 TEL 53-2114
大内 TEL 65-2804
東由利 TEL 69-2116
西目 TEL 33-4614
鳥海 TEL 57-2205